

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900476		
法人名	(有)久保田電気		
事業所名	グループホームマロン館	ユニット名	(1号館)
所在地	かすみがうら市宍倉6182-46		
自己評価作成日	平成 31年 4 月 18 日	評価結果市町村受理日	令和元年7月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873900476-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和元年6月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんと一緒に畑を作っている 季節を感じられるように旬の野菜を取り入れた食事を提供している 猫を飼っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から少し入った栗林に囲まれたのどかな環境の中に立地している。建物内は、2ユニットが一直線に配置されているため見通しがよく、長い廊下は歩行訓練等にも利用されている。管理者・職員は、利用者がそれぞれのペースで自由に安心して楽しく過ごせるよう支援している。毎月家族に送付する「お便り」で行事の報告や生活の様子を伝えるなど、家族との繋がりを大切に支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿ったサービスを心掛けている。リビング、事務所等目につくところに掲示している。	現在掲げている事業所独自の理念は、地域密着型サービスの意義が分かりづらい理念となっているとともに、以前の理念も一緒に掲示するなどしており、事業所としての理念が職員間で共有しづらいものとなっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所が目指すサービスのあり方を端的に示す理念を作成し、職員間で共有することを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのデイサービスと交流している。	地域の子供会が行っている廃品回収に協力しているほか、年1回事業所主催のバーベキュー大会に地域住民を招待している。事業所は周りに農家が多いこともあり、季節に応じた野菜を地域住民が持参してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	バーベキューを行う際は近所の方たちに参加を呼び掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っている。	委員から、事業所の災害時の避難場所が廃校となった学校であるので、鍵は誰が管理しているか、更に冬場の道路脇に置いてある凍結防止剤は誰が使用するのかなどを確認しておいた方がいいのではないかと意見を受け、市の担当者に確認している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に参加していただいている。	介護相談員を受け入れている。市のケアマネジャー会議に出席し、市職員と情報交換をしている。社会福祉課から事業所の空き情報の問い合わせがあるなど、日頃から協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。やむをえない場合、同意書をもらう。	身体拘束排除委員会として2ヶ月に1回、運営会社の専務が講師となって身体拘束について講義しているが、その内容や参加者など記録するまでには至っていない。身体拘束排除に関するマニュアルが作成してあるが、排除に向けての具体的な内容となっていない。定期的な研修が実施されていない。	身体拘束排除委員会として開催した内容や参加者の記録と研修の実施記録を作成することが望まれる。身体拘束排除に関する具体的な内容のマニュアルの作成と定期的な研修が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者さんに変化がないか日頃から気をつけて見ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を誰でも見られるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんからは日頃から、意見、要望を聞き、できる限り実施できるようにしている。家族からは面会に見えたとき、話をしている。	重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明示しているとともに、意見箱を設置している。家族等が面会に来た時、管理者や職員が聴き取り、検討・結果とともに書面に残し、「要望書」として保管している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行い意見を聞いている。ミーティングに限らず普段から意見を意見を言いやすいようにしている。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、毎月のミーティングで意見や提案を聴いている。災害時に使用するタオル等はまとめて準備しておいた方が良くはないかとの提案があり、導入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けて働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合った研修を受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのデイサービスやグループホームと交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	こちらから、コミュニケーションを取るようになっている。 話しやすい雰囲気を作るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から相談、要望があれば聞く機会を設けている。面会の時、話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方に他のサービスも使えることを伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、家族から今までの状況を聞き、利用者さんにあった対応ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話等で施設での様子を伝え、意見を聞きながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたりしている。 手紙を出される方もいます。	入居時に家族等からの聴き取りや普段の利用者との会話の中から聴き取ったことを個人ファイルに記入して、職員間で共有している。 2ヶ月に1回、馴染みの理容師が訪問している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係を常に観察し、家具の配置を変えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた家族の方が野菜を持ってきてくれたりします。入居を勧めてください方もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話から本人の希望、意向を把握できるよう努めている。	入居時に利用者や家族等から生活歴を聴き取り記録に残しているほか、日々の関わりの中から思いや意向を把握している。表出困難な利用者は表情や仕草から汲み取り、職員間で話し合って把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さん、家族から今までの生活歴等の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	血圧、体温を測定しその日の状態を観察している。病歴を家族から聞き把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さん、家族、職員の意見、要望を聞き本人らしく暮らせるようプランを作成している。	家族等や利用者の意向を基に、医療関係者の意見を聴いて、管理者や職員で話し合って作成している。2ヶ月ごとにモニタリングを行い、基本1年で見直しを行っているが、利用者の状況に変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を基に、変化があった時は職員同士で話し合いができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの状況に応じて受信、散歩等に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来ていただき踊り、カラオケ等披露していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医へ受信している。家族も一緒に受信してくれる方もいます。月2回往診していただいている方もいます。	週1回看護師が健康管理で訪問している。受診には職員が同行することで、医師と直接情報のやり取りができています。家族が付きそう時は、家族に伝言して医師に伝えてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師が来館するので気になる事があると相談している。急変時は電話で指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ面会に行き、看護師に様子を聞いたり家族と連絡を取ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて家族の方と話し合い、方針を聞いている。	看取りを行う事業所であり、契約時に「終末期医療の方針」を説明し、同意を得ている。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっている。「看取りに関する指針」を整備し、年1回内部研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い災害時にそなえている。	避難訓練は実施しているが、夜間想定は実施していない。地域の住民が参加する避難訓練となっていない。災害に備えた備蓄品はあるが、賞味期限や見直しの年月日などを記載した記録などが無い。	夜間想定を含む年2回以上の避難訓練の実施とともに、地域住民の参加を期待する。備蓄品一覧表には、賞味期限や備蓄品入れ替えの日付を記載することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー開示についての同意書をいただいている。 一人一人にあった対応を心掛けている。	利用者のことはさん付けで呼んだり、言葉遣いに気を付けるなどしている。個人情報に関する同意書があり、個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかるロッカーに保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で思っている事を言えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度床屋さんに来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、マット出し等手伝っていただいている。 食器を下げられる方は台所まで持ってきていただいている。 メニュー、リクエストを聞いている。	利用者の希望を聴きながら、職員が献立を作り買い出しをして調理している。利用者は、野菜の皮剥き、もやしのひげ取り、テーブル拭き等、それぞれの能力に応じた手伝いをしている。誕生会には手作りケーキでお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、形態は一人一人に合わせている。 水分は摂るよう勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯医者さんにかかっている方もいます。 義歯は預かり洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見てトイレ誘導、声掛けをしている。	利用者一人ひとりの生活リズムやパターンを把握し、利用者に合った声かけで排泄支援をしている。布パンツは1名、他の利用者はリハビリパンツで夜間もトイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事の提供。ラジオ体操、散歩等、体を動かすようにしている。薬を処方してもらう方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の気分、状況に合わせて支援している。毎日、入浴できるようにしている。	入浴は1日おきに、利用者の意向に沿っていつでも入れるよう支援している。入浴剤を使用したり、冬至にはゆず湯にするなど、入浴が楽しみとなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室、リビングでくつろいで過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書をファイルに綴じいつでも見られるようにしている。薬が変わった時は口頭で伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑、掃除、洗濯等、手伝っていただいている。塗り絵をやっている方もいます。旅行雑誌を見ている方もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	普段は散歩に声掛けしたり、3ヶ月に1度は車で外出できるよう企画している。	天気の良い日には利用者と職員で事業所周辺を散歩している。遠くに行けない利用者は家庭菜園の野菜を見たり、玄関前の椅子に座って日光浴をしている。年間行事計画を立てて、車いすの利用者も一緒にドライブや花見、買い物などに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した際は、自分の財布から支払している。 金庫に預かっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけている。 携帯電話を預かっている方もいます。 手紙を書かれる方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに合わせた飾り付けをしたり、庭に咲いてる花を飾ったりしている。	玄関には季節の花が飾られ、段差が解消されている。ユニットを繋ぐ広く長い廊下は、利用者が歩行訓練を行う場ともなっている。事業所内のあらゆる場所が整理整頓されているので、躓きや転倒防止となっているほか、朝と夜の掃除で、臭い防止と綺麗な環境の維持がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イスを玄関、リビングに置いて、好きなように使ってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持ってきていただいている。 畳、ベットを選んでいただいている。	管理者は使い慣れた物を持参して欲しいと利用者や家族等に伝えている。ベッドから安心して立ち上がれるように、サイドレールを希望する利用者には設置している。希望に応じて布団(畳)とベッドを選べるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋、トイレ、風呂場が分かるように書いている。 利用者さんに合わせて手すりを付けている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームマロン館

作成日 令和元年7月11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束についての会議の記録の作成がない 具体的なマニュアルの作成がない	会議の記録を作る 拘束に関する具体的なマニュアルを作成する	会議の記録を作成し残す 具体的な内容のマニュアルを作成し職員が共有できるようにする	2ヶ月
2	35	避難訓練の時に地域の住民の参加をどのようにするか 夜間を想定した訓練がされていない 備蓄品の管理がわかりづらい	地域の方に参加を呼びかける 夜間を想定して訓練をする 備蓄品の管理をわかりやすくする	推進会議の時に民生委員の方や近所の人たちにも参加、見学してもらう	2ヶ月
3	1	経営、運営理念といろいろあって理念がわかりづらい	理念をわかりやすくする	玄関に入った位置に理念をかかげる	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。